

公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動

京都市立洛西中学校

〔事業の概要〕

本校の校区，洛西ニュータウンは他のニュータウン同様，少子高齢化が進み，人口減に伴うさまざまな課題を抱えています。このような問題意識から，行政や地元住民の皆さんが「洛西ニュータウンまちづくり検討会」を立ち上げ，『将来ビジョン』を作成されました。現在は「ニュータウン創生推進委員会」として，地域活性の具体的な実践に取り組まれています。

学校教育に関わる者として，地域の課題を共有する。そのための手立てのひとつとして，また学校教育の本来の仕事のひとつとして，子どもたちの学びと育ちに責任を持つ。そして学力面においても，人間力の面においても，本校が「力のある学校」として他の追随を許さないような成果をあげ，その成果を全市・全国に発信できるなら，しかもその実践と検証は，中学校段階にとどまらず，就学前教育に始まり，小中の義務教育段階から，高等学校，大学と一貫した取組として展開できるなら，洛西ニュータウンへの転居希望者が増加するに違いないと考えています。「公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動」ともいうべき取組です。



洛西ニュータウン

（１）地域の概況

本校は，京都西部，国道9号線ぞいの丘陵地に，昭和51年より開発された洛西ニュータウンのほぼ中央に位置し，昭和53年4月，檜原中学校西分校として発足し，翌年4月に開校した30年目を迎える学校です。

その後は，ニュータウンの人口増加にともない，昭和55年に本校の分校がつくられ，平成7年にはさらにもうひとつの分校ができました。現在，本校校区は，ニュータウン内の2小学校からなり，生徒数382名，13学級の普通学級と2学級の育成学級を要する学校です。

洛西ニュータウンも，早や30数年の年輪を刻み，多少の流出入はあるものの，人口の急増期を終え，近年，人口の流動はあまり見られない状況です。むしろ全国的な少子高齢化の流れを受け，若年層，とりわけ小中学生の児童・生徒数は激減しています。

本校においても，昭和63年の生徒数1,504名を上限に年々減少し続け，校区の3分の1が分校に移転したとはいえ，今年の生徒数382名は今昔の感があります。



校門付近

（２）事業の経緯・目的

本校の校区・洛西ニュータウンも，他のニュータウン同様少子高齢化が進み，人口減に伴うさまざまな問題を抱えています。このような問題意識から，平成17年8月に行政

の主導で「洛西ニュータウンまちづくり検討会」が発足され、平成18年11月に「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が策定されました。そして現在は、先のビジョンの実現に向けて、洛西ニュータウン創生推進委員会が具体的な実践に取り組まれています。

孟母三遷を持ち出すまでもなく、良質の教育内容（学力面の充実・人間的な成長の両面）を保障する学校には、転居してでも子どもを入学させたいという思いをもつ保護者はおられるものです。

もしこの仮説が真実なら、本校の取組を通して、他の「効果のある学校」「力のある学校」に遜色ない成果を上げることができるなら、本校へ入学するために、他地域から洛西地域へ転居してくる家庭が増えるのではないかと。

そうすれば、本校の活性化にとどまらず、洛西地域の活性化に寄与・貢献できるのではないかと考えています。「公立学校の教育活動を核とした地域活性運動」とも言うべき取組です。

本校の教育活動が洛西地域全体の活性化に寄与する。また、地域の各種団体の取組が公立学校の教育活動に貢献する。学校と保護者・地域が、双方から協力・支援体制を構築し、子どもたちの育ちと学びを保障する。そのために、学校運営協議会や学校支援地域本部の制度が必要なのです。

（3）事業の内容

1）本校生徒の学習支援活動としての3つの事業

① 学習支援Ⅰは、本校生徒から希望者を募り、学校支援ボランティアによる放課後学習会を実施しています。昨年度は3年生を対象に、部活動引退後の10月下旬から始めました。今年度も同時期から始める予定です。

② 学習支援Ⅱは、現在、生徒アンケートの集計中ですので確定的なことは言えませんが、1・2年生にも学習会を拡大するために、学校支援ボランティアによる夜間学習会を計画しています。

③ 学習支援Ⅲは、3年前からはじめた土曜スクールの取組みです。英検5級から準2級までの受験対策に特化して希望者を募り、学校支援ボランティアによる土曜スクールを実施しています。



土曜スクールの様子

2）校区の小学生を対象とした学習支援活動としての2つの事業

① 学習支援Ⅳとして、校区小学校5・6年生から希望者を募り、「英語に慣れ親しもう」コースをつくり、学校支援ボランティアによる土曜スクールを実施しています。

② 学習支援Ⅴとして、校区2小学校5・6年生を対象とした英語活動（週1回）を学校支援ボランティアと担任によるTT授業を推進しています。

3）部活動支援の観点から、洛西ふれあいフェスティバルの開催

○ 洛西ふれあいフェスティバルは、本校及び隣接する小学校の施設を利用して行う中学校区単位のお祭りです。このお祭りのコーナーのひとつとして、本校生徒と校区2小

学校5・6年生との部活動交流会を実施しています。その際、PTA・おやじの会ははじめ各種団体のみなさんが約500人分の炊き出しをしてきています。因みに昨年はカレーライスを作っていました。



環境整備の作業中

4) 環境整備活動としての2つの事業

- ① 環境整備Ⅰは、学校支援ボランティアの協力で校内を「花いっぱいにする」花植え活動です。今年度、本校は創立30周年を迎えました。その佳節を記念して、校舎の緑のカーテン化の取組みや校舎周辺にプランターでいっぱいにする取組み、雑草だらけになっていた花壇を再生する取組みなど、地域・PTA・おやじの会などと生徒会とで取組みを進めています。
- ② 環境整備Ⅱとしては、地域の一斉清掃活動（毎年12月に実施）に、部活動生徒が参加しています。

5) 生徒の健全育成活動としての2つの事業

- ① 生徒の健全育成活動Ⅰとして、学校支援ボランティアを招いて「親子で学ぶ道徳授業」の開催。
- ② 生徒の健全育成活動Ⅱとして、学校支援ボランティアと生徒会との「ふれあい討論会」の開催。
- ③ 生徒の健全育成活動Ⅲとして、「音楽と天体観測の夕べ」の開催。

6) その他、学校の空き教室を利用して「学校支援地域本部の部屋」を創設。

(4) 関係団体等との連携・協力

本校では、「学力水準の向上と学力格差の解消を実現するための6つの柱」を掲げ、「確かな学力育成」の実践研究をすすめてきました。

「学力水準の向上と学力格差の解消を実現するための6つの柱」とは、以下の通りです。

- ① 授業時数確保の取組
- ② 授業改善の取組
- ③ 家庭との連携による取組
- ④ 異校種連携の取組
- ⑤ 地域との連携による取組
- ⑥ 土曜スクールの取組

これら取組のうち、①②③については、主に学校の取組ですが、④の異校種連携の取組については、校区2小学校への中学校教員の計画的な出前授業に加えて、地域からの講師派遣により義務教育9ヵ年かけて学力低下の克服を図っています。

また、校区内にある府立高校と私立高校と授業交流、部活動交流、進路保障など連携を深めています。

⑤の地域との連携として、放課後や長期休業期間中の補充あるいは発展学習などの講師を学校支援地域本部の皆さんにお願いしています。



手引き体験

⑥の土曜スクールについては、英語検定・漢字検定学習に特化して希望者を募り、英検・漢検合格を目指しています。地域住民に対しても生涯学習の場として学ぶ人も教える人も募っています。

また、本校では、学校教育目標を「よりよい社会の実現に貢献しようとする人間性の育成」とし、道徳や総合的な学習の時間などを利用し、ボランティア活動を含むさまざまな体験活動を推進しています。環境教育、福祉教育、人権教育、国際交流教育、キャリア教育、職業教育など、地域ボランティアの方々に指導していただいています。

（５）成果と課題

学校支援地域本部の制度は今年度の新規事業であり、今後どのように進化・成長していくかとても楽しい事業です。本校の学校支援地域本部のねらい「公立義務教育学校の教育活動を核とした地域活性運動」ともいうべき取組が、本校のねらい通り軌道に乗れば、京都市洛西地域における、またわが国のニュータウンにおけるモデル事業となりうるとともに、わが国の教育再生、学校改善への大きなビジョン・筋道を発信・提供できる取組であると確信しています。

学力向上・学力格差の課題・何のための学力向上なのかという価値観の模索・人間力向上の課題など、学校が地域の方々と具体的にどう関わることによって、解決の足がかりをつかむことができるか、前途の視界は良好ではないかもしれませんが、地域の心ある方々と思いを共有しながら取組をすすめていきたいと考えています。